



第19回

# 師走講演会



## 今なぜケニア!?

## ～コロナ禍のなかで奮闘する ケニアの中の日本人～

(モヨ・チルドレン・センター)

### 講演 I. MCCの現在、過去、未来

～松下照美さんの遺志を継いで目指すべき道～

佐藤南帆

自治医科大学を卒業後、国立国際医療研究センター病院・重症病棟/ハイケアユニット/脳卒中ケアユニットで看護師として3年間勤務。退職後、ストリートチルドレンの自立支援を行うNGOモヨ・チルドレン・センターでインターン。2020年よりケニア発のファッションブランド「RAHA KENYA(ラハケニア)」でマーケティング・広報・商品製作・新規事業担当を務める。2022年2月モヨ・チルドレン・センター代表に就任。



ティカからリモート

### オンライン形式で開催します!

(ウェブソフト)ZOOM利用。

### 釧路 ←リモート→ ケニア

(MCCのあるティカ)  
(稲田先生の拠点のナイロビ)

以下のURLあるいはQRコードからご登録ください。

事前登録URL

<https://bit.ly/ILFARKushiro1212>

尚、お申し込みは開催前日12/10(土) 20:00までをお願いします



## 2022年 12月11日(日) 16:00~18:00

## 釧路ろうさい病院

新興感染症、戦争、異常気象、多くの災禍に翻弄され続ける地球上に、絶対に普通なものがあります。それは、人の命の尊さであり、当たり前に普通の生活を営む事が出来るという人間の権利です。その命の尊さと生活する権利をケニアの地で追い求め実践している日本人がいます。ケニア医療支援を活動の一つとして捉えるイルファア釧路が、そんな日本人に焦点をあててみなさまにプレゼントします。コロナ禍で海外に目を向けづらい今だからこそ知ってもらいたいことがある。もちろんケニアからのリアルタイムのリポート報告です!

### 講演 II. 西部戦線異状なし!?

～ケニアでのHIV治療の均てん化をめざして～

ナイロビからリモート



稲田頼太郎

獣医師。1976年に渡米。1980年に初めてのHIV感染者と出合いケア活動始める。1993年、日本でエイズ患者や HIV 感染者の診療にあたる医師や看護師を養成するために、同僚のラング医師とともに「イナダーラングエイズ研究財団:ILFAR」を設立し、100名以上に及び日本人医療従事者が研修を受けた。一方、2000年よりナイロビ市にあるスラム地区

においてエイズ医療体制構築のための無料診療を開始し、陽性者の拾い上げとケア、感染予防のプログラムを展開。2013年には単身ケニア、ナイロビに定住し、陽性者のための継続的医療体制の構築をめざし奮闘中。

### HIV孤児院におけるHIVケア

ムマジュマ

ケニアのクリニカルオフィサー。2015年からILFAR Kenya Medical Centerの医療活動に参加。現職はNairobi City Public Servicesの職員。2020年には超音波診断士の資格も取得。ILFAR Kenyaでは稲田先生の片腕として、孤児院でのHIVケアに中心的に関わっている。



主催/イルファア釧路

共催/釧路労災病院

後援/釧路市医師会

問い合わせ先

イルファア釧路事務局  
(あんずの種)

## 0154-39-2589



イルファア釧路は、地域の性感染症・HIVエイズの予防啓発とケニアでのHIV医療支援を行っています。